

～ 内閣府・文部科学省・環境省後援 ～
旺文社主催 『第51回 全国学芸科学コンクール』 作品募集開始
賞の総数583、今年の応募作品数は101,170点


教育出版の株式会社旺文社(本社：東京都新宿区、代表取締役 赤尾 文夫、以下旺文社)は、6月25日より「第51回 全国学芸科学コンクール」の作品募集を開始いたしました。

当コンクールは、小・中・高校生の夏休みの創作活動や総合学習の一環として、また課外活動での学習成果の発表の場として多くの学校にご活用いただいております。昨年(第50回)は全国各地から、また、タイやカナダなど海外から(11カ国、22校、計228点)も含め、101,170点の応募がありました。

分野は、科学(人文社会科学研究・自然科学研究)・アート(絵画・デザイン・書道)・文芸(小説・作文・詩)・文芸(小論文・英文エッセイ・読書感想文)・環境(写真・ポスター)など多岐に渡り、賞については内閣総理大臣賞、文部科学大臣奨励賞、環境大臣賞などの特別賞も含め、総数で583となっております。昨年からは上位入賞者を対象とした奨学金制度も導入いたしました。

今年も多くの子どもたちに参加していただき、「考える力」「生きる力」を養い、豊かな人間性や感性を育ていけるよう、更に充実したコンクール運営を目指してまいります。

コンクールの概要

名 称	第51回 全国学芸科学コンクール	
応募締切	2007年9月25日(火) 当日消印有効	
主 催	株式会社 旺文社	
後 援	内閣府、文部科学省、環境省	
募集対象	全国の小学生・中学生・高校生(海外の日本人学校在籍者も含む)	
募集部門	科学分野/人文社会科学研究(中・高)・自然科学研究(中・高) アート分野/絵画(小・中・高)・デザイン(小・中・高)・書道(小・中・高) 文芸分野 /小説(中・高)・作文(小・中)・詩(小・中・高) 文芸分野 /小論文(高)・英文エッセイ(中・高)・読書感想文(小・中・高) 環境分野/写真(小～高)・ポスター(小～高)	
応募方法	応募作品は1点ごとに専用の応募票(正副で1枚)に必要な事項を記入し、作品に添付。 応募方法詳細は、同封の「応募要項」または旺文社ホームページ http://www.obunsha.co.jp/ 参照 応募票は旺文社ホームページよりダウンロード可能	
応募のきまり	応募作品は、自作(オリジナルな創作作品)で、未発表のものに限定。盗作、または他作の一部改変は失格。他社のコンクールに応募した作品は不可。 その他詳細は、同封の「応募要項」または旺文社ホームページ参照	
応募締切後の主な予定	2007年 10月中旬～11月中旬: 1次選考・2次審査 12月5日(水): 最終審査会実施(会場:東京) 2008年 2月中旬: 「第51回金賞作品集」刊行 3月7日(金): 表彰式・受賞パーティー実施(会場:ホテルオークラ東京) 3月下旬～4月: 入賞作品展示会実施(会場:東京)	
応募先・お問合せ先	旺文社「全国学芸科学コンクール」事務局 〒162-8680 東京都新宿区横寺町 55 TEL: 03-3266-8002 E-mail: gakkon@obunsha.co.jp	

当コンクールは、文部科学省が児童生徒の学習意欲向上に資する全国的規模の大会に対して行う支援事業「学びんピック」の認定を4年連続で受けています。



「第50回全国学芸科学コンクール表彰式」の様子



第50回 表彰式にて 金賞受賞者と審査員、授与の先生がた



内閣総理大臣賞を授与される受賞者



表彰式会場に展示された受賞作品

昭和32年（1957年）から行われている全国学芸科学コンクールは、昨年（2006年）が第50回という節目の年となり、記念として理学博士の秋山仁先生の教育講演会も開催し、ご好評をいただきました。表彰式・受賞パーティーには、第1回受賞者で彫刻家の加藤知彦氏をはじめ、歴代の受賞者にもご参加いただき、歴史あるコンクールの受賞パーティーに花を添えました。

また、全国学芸科学コンクールは、中国との文化交流を目的に中国の出版社「中国少年儿童新聞出版総社」が主催する各種コンクールの上位入賞作品の特に優秀なものに対して、「旺文社社長賞」を授与しており、表彰式に中国からこの「旺文社社長賞」を受賞した2名の生徒も出席しました。受賞パーティーでは、日本人の受賞者と言葉の壁を越えて、楽しげに交流をしている姿が見受けられました。

以上

【旺文社会社概要】

社 名 : 株式会社 旺文社
代 表 者 : 代表取締役 赤尾 文夫
設 立 : 1931年10月1日
本 社 : 〒162-8680 東京都新宿区横寺町55
事 業 内 容 : 教育・情報をメインとした総合出版と事業
U R L : <http://www.obunsha.co.jp/>

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社旺文社 広報担当：三澤
TEL:03-3266-6292 FAX:03-3266-6045
E-mail : pr@obunsha.co.jp

【総合学習への活用事例】

「全国学芸科学コンクール」は、多くの学校で夏休みの創作活動や総合学習の成果を発表する場として、ご活用いただいています。その事例の一つとして、「卒業研究」の作品で8年連続受賞を達成されている、東京大学教育学部附属中等教育学校（以下「東大附属」と省略）副校長 草川 剛人先生のお話をご紹介します。

東大附属は、1948年創立で、中高一貫校として60年近い歴史があり、総合学習は約40年に亘り行っています。一般の中学校にあたる前期課程（1-3年）と、高等学校にあたる後期課程（4-6年）に分かれており、「卒業研究」はその6年間の集大成として5年生から1年3ヶ月をかけてじっくり取り組みます。そして、その活動に目標を持たせ、客観的な評価を得るために1999年より毎年、旺文社が主催する「全国学芸科学コンクール」に応募することにしました。



東京大学教育学部附属中等教育学校
副校長 草川 剛人先生

東大附属の総合学習は、1996年に「特別学習」という形で教科にとらわれぬ授業を選択制で取り入れたのが始まりです。技術的なことや体験的なことを中心に、生徒が本当にやりたいと思うことを自発的に行うことを基本としています。

「卒業研究」に取り組む際は、1人の教師が3～4人の生徒を受け持ちます。教師は、まず生徒たちの話をよく聞き、専門外ならば、その分野の得意な人を探してきて生徒に会わせることを実践してきました。

「1年総合学習入門」では、学んできた成果を生徒が自ら発表することにしています。発表の方法はOHPを利用したり、演劇を取り入れたりと表現はさまざまですが、発表することで研究内容をより深く理解し、文章を書くのが苦にならなくなったり、他人とのコミュニケーションがうまくとれるようになるなど、確実に生徒たちの将来への力になっています。

卒業生の中には、「森林」をテーマに選び、そのすばらしさを知り、それがきっかけとなり大学で森林学を学んだ後、自然保護NGOスタッフとして、原生林の保護や伐採の監視活動を行う国際プロジェクトに関わっている生徒もいます。

生徒たちは生きることに前向きです。教師たちはこの「卒業研究」で生徒たちと一緒に課題に取り組み、それによって生徒たちのもつ新鮮な感性や可能性に触れることができるのです。

こうして制作した作品が「全国学芸科学コンクール」の審査員の方々によって高く評価されたときの喜びは生徒にとっても教師にとっても非常に大きなものです。「生徒が自分のテーマに燃える！指導の過程で教師が学ぶ！」これが東大附属の総合学習なのです。

東大附属の「全国学芸科学コンクール」での受賞実績

年度	受賞の内容
1999年	銅賞 1名
2000年	入選 3名
2001年	銀賞 1名
2002年	入選 1名
2003年	金賞(内閣総理大臣賞) 1名、入選 2名
2004年	銅賞 1名、入選 5名
2005年	銀賞 1名、入選 5名
2006年	銀賞 1名、入選 4名